

# 言葉づかいと声質の関係

中村 沙織

## 1. はじめに

マンガを読んだ後で同一作品のアニメを観たとき、キャラクターの声に違和感を覚え、そのキャラクターの声に対して、「もっと〇〇であるべきだ」と他人と意見が一致したことはないだろうか。これは、「ある一つの人物像に対して抱く声質のイメージにはある程度普遍的なステレオタイプが存在する」（金子 2011 :p153）ためだという。金子（2011）は、例えば、容姿のみ分かっている人物の職業や性格を明かし声質をイメージさせると、そのイメージされる声質は、受け手の間である程度一致すると主張している。

「ある一つの人物像」についてその具体例を考えたとき、対象人物の容姿や年齢、性別などが挙げられるが、筆者は対象人物の「言葉づかい」もまた「ある一つの人物像」になり得るのではないかと考えた。つまり、言葉づかいから声質をイメージすることは可能であり、また、ある一つの言葉づかいに対して抱く声質のイメージにはステレオタイプがあるのではないかとということである。

このような疑問から、本稿では〈声に対する個人それぞれの先入観〉と〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉について調査したうえで、言葉づかいは他の要因（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、性格など）に比べ、どの程度声のイメージ形成に影響を及ぼすのかを明らかにしたいと考えた。そして、ある声質からイメージする言葉づかいにはステレオタイプが存在するのか、あるいは、ある言葉づかいからイメージする声質にはステレオタイプが存在するのかという点についても、アンケートを行い明らかにしていく。

## 2. 言葉づかいや声質についての先行研究

言葉づかいと声質の関係について説く前に、言葉づかいや声質のステレオタイプについて、先行研究をもとに整理する。

まず、言葉づかいのステレオタイプに関して、金水（2003）が唱えている「役割語」についての定義を記すと以下の通りになる。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。（金水 2003:p205）

また、金水（2003）は役割語について、次のようにも記述している。

「あら」「まあ」「おお」等の感動詞、「はっはっはっ」「ほほほ」等の笑い声、また、音の高低、文全体のメロディとして表れるアクセントやイントネーション、またしゃべる速度、なめらかさなどの音声的な要素も役割語の要素となりうる。（金水 2003:p207）

音声的要素も役割語形成の一要素となるということつまり、音声的要素それ自体にもそれぞれステレオタイプが存在することを示唆している。

この、音声的要素のステレオタイプに関する論文の中に「声のステレオタイプ」を研究したものがあり、「ある一つの人物像に対して抱く声質のイメージにはある程度普遍的なステレオタイプが存在する」（金子 2011:p153）と主張している。

本稿では言葉づかいの中でも音声的要素を含まない話しことばを「言葉づかい」と定めた。そして、声質を言葉づかいの一部としてではなく独立した存在として考え、言葉づかいと声質の関係について探ることにした。以下に示すものが本稿における「言葉づかい」と「声質」の定義である。

#### 〈言葉づかい〉

アクセントやイントネーションなどの音声的要素を含まない話しことば。

また、「一人称」と「文末表現」それ自体と、それらを含む話しことばのこととする。

#### 〈声質〉

本稿での声質の定義は、粕谷・楊（1995）内での声質の定義と同義とし、「音声に含まれる個人性特徴と性状の特徴によってもたらされる聴覚的特質」（粕谷・楊 1995:p871）のこととする。言葉づかいの一部としては捉えない。

言葉づかいと声質の関係について調査するために2種類のアンケートを行った。アンケート1では、ある声質からイメージする言葉づかいにはステレオタイプが存在するか、アンケート2では、ある言葉づかいからイメージする声質にはステレオタイプが存在するか、という点について調査を行った。以下、3でアンケート1について、4でアンケート2について述べる。

### 3. アンケート1「〈声に対する個人それぞれの先入観〉と〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉」「声質からイメージする言葉づかい」について

#### 3.1. 調査目的

〈声に対する個人それぞれの先入観〉と〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉について調査した上で、言葉づかいは他の要因（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、性格など）に比ぶどの程度声のイメージ形成に影響を及ぼすのかという点を明らかにする。また、ある声質からイメージする言葉づかいにはステレオタイプが存在するのかという点についても、アンケート1の調査結果から考察していく。

#### 3.2. 調査対象と方法

選択・記述式のアンケートを Google フォームにて行い、18歳～24歳の男女60人（男性14人・女性46人）から回答を得た。

質問は1～46まであり、最後に年齢と性別を聞いた。質問1～7は、〈声に対する個人それぞれの先入観〉と〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉についての質問で、質問1～4は現実世界の人物について、質問5～7は非現実世界の人物について質問した。

質問8、9では、言葉づかいは他の要因（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿、性格など）に比べ、どの程度声のイメージ形成に影響を及ぼすのかを調査するための質問をした。

質問10～45では、具体的な声質を提示し、声質からどのような言葉づかい（一人称・文末表現）をイメージしたかを質問した。アンケート1で使用した一人称と文末表現の選択肢は、金水敏編（2014）『〈役割語〉小辞典』（研究社）内に掲載されている語から採用し、「該当なし」を選択肢に追加した。以下の表1、2がそれぞれの選択肢である。

表1 一人称選択肢

あたい・あたし・あたくし・うち・わちき・わて・わらわ・わたくし・わたし・あっし・ おいどん・おいら・おのれ・おら・おれ・ぼく・まる・せっしや・じぶん・それがし・ わがはい・わし・該当なし
---

表2 文末表現選択肢

～さ・～よ・～や・～だ・～だよ・～っす・～です・～でございます・～であります・ ～でおじゃる・～でごぜえます・～でござる・～だす・～どす・～ぎあます・～でござ す・～ですわ・～じゃ・該当なし
---

また、アンケート1で使用した「声の質を表す表現語」については、木戸・粕谷（1999）の中で行われている、声の質を表す表現語のクラスター分析の結果を参考に決定した。採用した表現語は表3の通りである。

表3 声の質を表す表現語の組み合わせ

〈かわいい声〉 〈女性的な声〉 〈張りがあり響きのある声〉 〈落ち着きのある声〉 〈かすれた声〉 〈色っぽい声〉 〈ドスの効いた声〉 〈渋い声〉 〈鼻の詰まった声〉
---

質問46では、声質をイメージするにあたり具体的に思い浮かべた人物はいたか質問した。

### 3.3. 結果と分析・考察

#### 3.3.1. 人物像と声質

ここでは人物像と声質に関する質問1、2、5の内容とその結果を述べる。

質問1 声以外の人物像（年齢・性別・職業・言葉づかい・性格・外見など。これらすべてでなくても可。）を知っている人物の声を初めて聞いて、その人物に対する印象が以前と変わった経験はあるか。

被験者の83.3%が、声以外の人物像だけを知っている、現実世界の人物の「声」を初めて聞いて、その人物に対する印象が変わったことがあると回答した。

金子（2011）では「声のステレオタイプ」に関するアンケートを行っているが、その中で「初めて会った人の声を聞いて、その人の印象が変わったことがあるか否か」（金子2011：p150）という質問をしている。その結果、被験者101名のうち83名が印象が変わったことがあると回答しており、この結果について金子（2011：p205）は「個人が持つ

ている声質のステレオタイプが大きく関係している」と指摘している。

本アンケートにて金子（2011）と同様の質問をしたところ非常に似た結果が得られたが、筆者はこの結果について、大半の被験者が、対象が現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって人物像から想像した声質」と「実際の声質」が一致しなかった経験があるということだと考えた。

**質問2** 声だけを知っている人物（ラジオパーソナリティ、ナレーター、電話でのみやり取りをしたことがある人物など）の、他の人物像を知って、その人物に対する印象が以前と変わった経験はあるか。

被験者の78.3%が「はい」と回答しており、大半の被験者が、対象が現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって声質から想像した人物像」と「実際の人物像」が一致しなかった経験があることが分かった。

**質問5** マンガを読んだ後で同一作品のアニメ版を観たとき、キャラクターの声に違和感を覚えたことはあるか。

被験者の78.3%が「はい」と回答しており、大半の被験者が、対象が非現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって人物像から想像した声質」と「実際の声質」が一致しなかった経験があるという結果になった。また、マンガを読んでキャラクターの声を想像する人が多いということから、非現実世界の人物でも、人物像から声質をイメージすることは可能であると言える。

### 3.3.2. 人物像と言葉づかい

以下は人物像と言葉づかいに関する質問3、4、6、7の内容とその結果である。

**質問3** 声と言葉づかい以外の人物像を知っている人物の、言葉づかいを文面上で初めて知ったとき、その人物に対する印象が以前と変わったという経験はあるか。

（例：写真で外見を見たことがある人物の、ブログやツイートを見た時）

被験者の68.3%が「はい」と回答しており、約7割の被験者が、対象が現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって人物像から想像した言葉づかい」と「実際という言葉づかい」が一致しなかった経験があることが分かった。

**質問4** 文面上での言葉づかいだけを知っている人物の、声以外の人物像を知って、そ

の人物に対する印象が以前と変わったという経験はあるか。

(例：ブログやツイートを見た後、投稿者本人の写真を見た時)

被験者の70.0%が「はい」と回答しており、7割の被験者が、対象が現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって言葉づかいから想像した人物像」と「実際の人物像」が一致しなかった経験があることが分かった。

**質問6** 声と言葉づかい以外の人物像を知っているキャラクターの、言葉づかいをマンガや小説を読んで知ったとき、そのキャラクターに対する印象が以前と変わったという経験はあるか。

「はい」と回答した被験者の割合は38.3%に留まり、質問3の現実世界の人物に対する同様の質問よりも「はい」の回答率が低い結果となった。対象が非現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって人物像から想像した言葉づかい」と「実際の言葉づかい」が一致しなかったことが無い、つまりイメージした言葉づかいと実際の言葉づかいとの間にギャップを感じたことが無いという被験者の方が多かったことが分かる。イメージした言葉づかいと実際の言葉づかいにギャップが無いということは、キャラクターの作り手とその受け手が、対象のキャラクターの人物像から共通した言葉づかいをイメージしていたということになる。「個人それぞれの先入観」が他人と共有されるものとなったときそれがステレオタイプとなるわけだが、この点を踏まえた上で質問6の結果を考えると、非現実世界の人物における人物像から想像する言葉づかいに関してはステレオタイプが存在するのではないかと推測された。

**質問7** 小説などを読み、言葉づかいだけが分かっている登場人物の、声以外の人物像が明らかになったとき、その人物に対する印象が以前と変わったという経験はあるか。

「はい」と回答した被験者の割合は48.3%で「いいえ」と回答した人(51.7%)の方が僅かながら多く、質問4現実世界の人物に対する同様の質問よりも「はい」の回答率が低い結果となった。対象が非現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観によって言葉づかいから想像した人物像」と「実際の人物像」にギャップを感じたことが無いという被験者の方が、多少であるが多いことが考えられた。

図1は、質問1～7の結果を帯グラフで示し比較したものである。

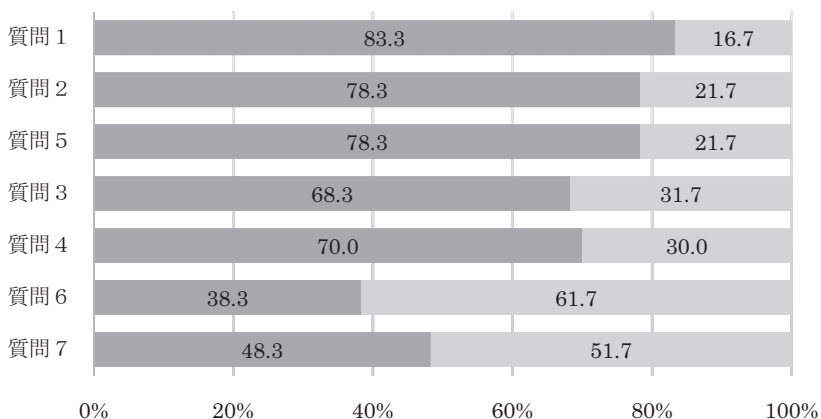


図1 質問1～7結果比較(割合)

表4では、質問1～7までの、「はい」と回答した人の割合を比較している。

表4 「はい」の回答割合質問1～7比較

			「はい」の割合 (%)	
			現実世界	非現実世界
人物像	→	声質	【Q1】83.3	【Q5】78.3
声質	→	人物像	【Q2】78.3	
人物像	→	言葉づかい	【Q3】68.3	【Q6】38.3
言葉づかい	→	人物像	【Q4】70.0	【Q7】48.3

質問1～7は、ある状況を経験したことがあるかないかという二択の質問であった。ほとんどの質問で「はい (=経験有り)」が半数を上回ったが、質問6、7では「いいえ (=経験なし)」が半数を上回っている。<sup>注1</sup>

質問1、2、5では、「はい」と回答した人が約8割を占め、声質を知ったことで印象が良くなったか悪くなったかは不明だが、「印象が変わったことがある」と答えた人の方が多いという結果になった。これはつまり、対象が現実世界・非現実世界どちらの人物であっても「個人それぞれの先入観で人物像からイメージした声質」と「実際の声質」が合致しないという経験を大半の被験者がしたことがあるということである。また、

人物像を知ったことで印象が変わったことがあると答えた人が多い点からは、対象が現実世界の人物であるとき、「個人それぞれの先入観で声質からイメージした人物像」と「実際の人物像」が一致しないという経験を多くの人がしていると言える。

質問3、4では「はい」と回答した人が約7割を占め、「印象が変わったことがある」と答えた人の方が多いという結果になった。これはつまり、大半の被験者が対象が現実世界の人物であるときに、「個人それぞれの先入観で人物像からイメージした言葉づかい」と「実際の言葉づかい」、また、「個人それぞれの先入観で言葉づかいからイメージした人物像」と「実際の人物像」がそれぞれ一致しないということ、大半の被験者が経験したことがあるのだと言える。

非現実世界の人物に関する質問で、人物像と言葉づかいの質問6、7では、現実世界の人物に関する質問3、4よりも「はい」の回答率が下がる結果となった。これはキャラクターの作り手とその受け手との間で共通した言葉づかいのイメージがなされているためではないかと考えられた。つまり、非現実世界の人物において人物像からイメージする言葉づかいと、言葉づかいからイメージする人物像には、ステレオタイプが存在するのではないかと<sup>注2</sup>いうことである。

### 3.3.3. 声質イメージ形成における言葉づかいの影響度合い

質問8 マンガや小説を読むとき、登場人物の声をイメージしながら読んだことはあるか。(同一作品のアニメ版や実写版などの音声情報を伴う作品を観た／聞いたことが無い場合に限る。)

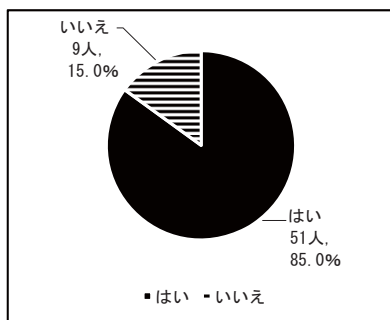


図2 質問8結果(人数・割合)

質問5の結果からも人物像から声質をイメージすることは可能であると言えるが、



85.0%の被験者がマンガや小説を読むとき登場人物の声質をイメージしながら読んだことがあると回答していることから、人物像から声質をイメージすることは可能だと考えられる。

また、声質をイメージしながら読むということは、「このキャラクターはこういう声質だろう」という、個人それぞれの先入観によってイメージされた声質があるためだと言える。

#### 質問9 （※質問8で「はい」と答えた回答者のみ回答）

登場人物の声をイメージする上で、イメージ形成の要因となるものは、登場人物に関する情報の中で次のうちどれが当てはまるか、上位3つまで選択。

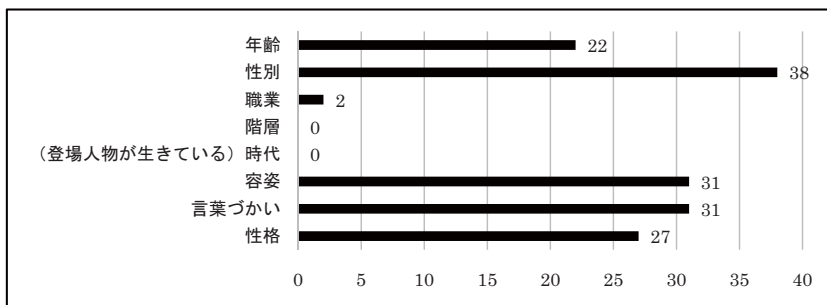


図3 声質イメージ形成の要因

質問8では、非現実世界の人物について人物像から声質を想像することが可能だとなかったが、「人物像」の中でも、声質イメージ形成において影響力を持つ具体的な要因について調査した。その結果、「性別」が38人、「容姿」と「言葉づかい」が31人の同数で上位の要因として選ばれた。

声質を大分類するのに必要な要素として性別が最も選択されることは納得がいく結果である。声質は音の高低という点で大分類することができるが、男女で音の高低は大きく異なるため、性別でイメージする声を絞ったのち、他の要素でイメージする声質を具体的なものにしていくと考えられる。

年齢もまた声の高低に影響が出ると考えられるため、声質をイメージするにあたり発話者の年齢は重要な要素になると推測していた。しかし結果は年齢よりも容姿の票数が

集まった。容姿は他の要素よりも得られる情報量が多いため、声質をイメージしやすく票が集まったのではないかと考えられる。

言葉づかいかもまた、容姿と同等に声質をイメージする上で重要な要素であることが分かった。声質をイメージする上で「言葉づかい」という情報が影響を及ぼすということとはつまり、ある声質に対し特定の言葉づか이가個人の中で結びついているためだと考えられる。

声質と言葉づか이가結びつきやすいのは、声質と言葉づかいどちらもが、そもそも役割語を形成するための要素同士であるからだろう。

声質と言葉づかいのどちらか、あるいは両方が受け手にとって印象的なものであった場合、双方はより結び付きやすくなる。例えば、特徴的な言葉づかいをしたキャラクターについて、そのキャラクターを思い出そうとしたとき、その声質も共起するという具合である。

言葉づかいはその組み合わせ次第で個性を出すことができるが、それらの言葉づかいを発した人物の声とともに記憶され先入観が生まれていくのだと考えられる。声質と言葉づかいの結びつきは、過去に観たアニメ作品などから、個人それぞれに構築されていくのだと推測する。

以上の結果から、声質と言葉づかいは「役割語」が形成されるまでの要素の一部であることが再確認されたとともに、密接に関わりあっていることが分かった。

### 3.3.4. 声質からイメージする言葉づかい (男性)

質問10～45では、提示したある声質からどのような言葉づかいをイメージするかについて、一人称・文末表現それぞれに回答してもらった。本稿では男性女性それぞれ一例ずつ結果と考察を紹介する。

図4・5は、一人称と文末表現のそれぞれの結果を表し、且つどのような組み合わせで一人称と文末表現が選択されているかを示している。例えば、図4〈かわいい声(男性)〉中の「おれ」は「～だ」「～だよ」と線で結ばれているが、これは「おれ」を選択した被験者2名のうち、一人は「～だ」もう一人は「～だよ」を文末表現で選択していることを表している。実線のうち、太い線で結ばれているものが一人称と文末表現の組み合わせで最も多かったものであり、選択肢名の隣の数字はその選択肢を選んだ被験者の数を示している。図中の右に示しているものは、一人称と文末表現の組み合わせとそれを選んだ被験者数の内訳である。

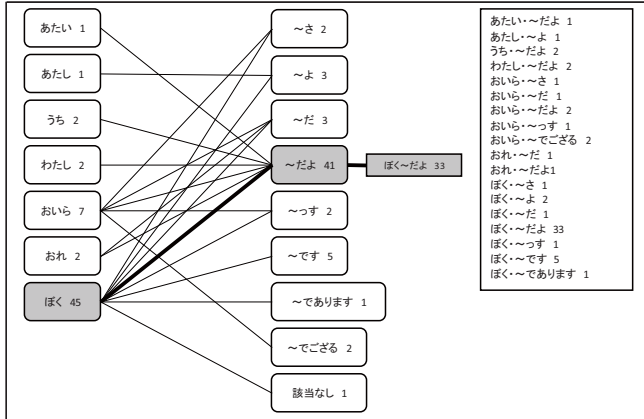


図4 質問10・11結果〈かわいい声（男性）〉の一人称と文末表現

一人称では45票と「ぼく」に票が集中しており、次いで7票の「おいら」が多い結果となった。弱くて優しいイメージをもつ「ぼく」や子どもっぽさを持つ「おいら」が選ばれた理由として、かわいい男性をイメージする場合、子どもを想起する人が多いためではないかと考えた。文末表現では「～だよ」が最も選択されていた（41票）。票数は少ないが、「～っす」や「～です」が選ばれている理由は、被験者がかわいい男性像を、自分より年下の人懐っこい若い男性をイメージし選んだのではないかと考えた。一人称、文末表現の組み合わせで最も多かったのは、「ぼく・～だよ」であり、33名がこの組み合わせを選択していた。

### 3.3.5. 声質からイメージする言葉づかい（女性）

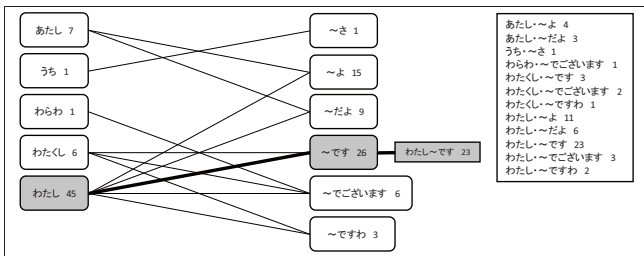


図5 質問30・31結果〈女性的な声（女性）〉の一人称と文末表現

図5は、女性の声質に関する質問の中で、一点に票が集中したうちのひとつである。一人称では「わたし」45票が最も多い結果となった。一人称では「～です」が26票、「～よ」が15票で上位を占めている。女性的な声（男性）の結果では、〈あたし・～よ〉の次に〈わたし・～です〉〈ぼく・～です〉などの組み合わせが多く、「女性的」というと丁寧なイメージがあるのだろうと考察したが、女性的な声（女性）では〈わたし・～です〉（23票）の組み合わせが最も多いという結果になり、この点からも「女性的」という情報からは丁寧さがイメージされることが分かった。

### 3.3.6. 声質からイメージする言葉づかい（全体）

3.3.4では男性のもの1件、3.3.5では女性のもの1件を示したが、その他、各声質から最もイメージされた言葉づかいを表5に示す。

表5 各声質から最もイメージされた言葉づかいの組み合わせ

声質	言葉づかい(男性)	人数	割合	言葉づかい(女性)	人数	割合
かわいい声	ぼく・～だよ	33	55.0%	わたし・～だよ	15	25.0%
女性的な声	あたし・～よ	12	20.0%	わたし・～です	23	38.3%
張りがあり響きのある声	おれ・～だ	20	33.3%	あたし・～だよ	9	15.0%
落ち着いたある声	わたし・～です	18	30.0%	わたし・～です	23	38.3%
かすれた声	おれ・～だ	9	15.0%	あたし・～だよ	9	15.0%
色っぽい声	おれ・～だよ	16	26.7%	あたし・～よ	18	30.0%
ドスの効いた声	おれ・～だ	16	26.7%	あたし・～だ	8	13.3%
渋い声	おれ・～だ	11	18.3%	わたし・～です	12	20.0%
鼻の詰まった声	ぼく・～だよ	7	11.7%	あたし・～よ	9	15.0%
				あたし・～だよ	9	15.0%

質問10～45では提示したある声質からどのような言葉づかいをイメージするかについて、一人称・文末表現それぞれに回答してもらった。表5は各声質から最もイメージされた言葉づかいの組み合わせについて一覧にしたものであるが、どの声質からも何らかの言葉づかいがイメージされることが分かった。これは「該当なし」の選択が各声質における全体の割合で見たとき、少数であったという点から言える。

ただ、そこにステレオタイプがあるかといえばやや疑問が残る。被験者60人のうち、半数以上の被験者に選ばれた言葉づかいの組み合わせは〈かわいい声（男性）〉からイメージされた〈ぼく・～だよ〉のみであった。他の言葉づかいと10票以上の差をつけて票が集中する言葉づかいもあったが、全体の割合からみると半数以下の被験者にしか選ばれていないという結果である。

だが、ステレオタイプとまではいかないものの、「比較的メージされやすい言葉づかい」はほとんどの声質で存在するということが分かる。そして、「比較的イメージされやすいと考えられる言葉づかい」は、各声質で似通った結果になることが多かった。男性の声質から言葉づかいをイメージしてもらった際には、〈おれ・～だ〉の言葉づかいの組み合わせが9種類中4つの声質表現（張りがあり響きのある声・かすれた声・ドスの効いた声・渋い声）によって、〈ぼく・～だよ〉の言葉づかいの組み合わせが9種類中2つの声質表現（かわいい声・鼻の詰まった声）によって最もイメージされている。また、女性の声質から言葉づかいをイメージしてもらった際には、〈わたし・～です〉が9種類中3種類の声質表現（女性的な声・落ち着きのある声・渋い声）によって、〈あたし・～だよ〉も9種類中3種類の声質表現（張りがあり響きのある声・かすれた声）によって、また〈あたし・～よ〉についても9種類中2種類の声質表現（色っぽい声・鼻の詰まった声）によってイメージされていた。

それに対して、最も集まった票が10票以下の声質があることから、言葉づかいがイメージされにくい声質も存在した。

男性の声質では、〈かすれた声（9票/15.0%）〉〈鼻の詰まった声（7票/11.7%）〉、女性の声質では〈張りがあり響きのある声（9票/15.0%）〉〈かすれた声（9票/15.0%）〉〈ドスの効いた声（8票/13.3%）〉〈鼻の詰まった声（9票/15.0%）〉という声質が言葉づかいをイメージするにはやや難しいということが分かった。

また、男性の声質よりも女性の声質から言葉づかいをイメージする方が困難ようだが、発話者を女性と想定して〈張りがあり響きのある声〉〈ドスの効いた声〉という声質から言葉づかいをイメージするのは難しいのに対し、発話者を男性と想定して同様の声質から言葉づかいをイメージさせると、比較的イメージされていることが見て取れる。これはおそらく〈張りがあり響きのある声〉〈ドスの効いた声〉がどちらも男性性の強い声質表現であるためだろう。反対に、〈女性的な声〉からは、女性の場合だと言葉づかいがイメージされやすいのに対し、男性の場合だとイメージされにくくなっており、これは〈女性的な声〉が女性性の強い声質表現であるからだと考えられる。このように、発話者が男性である場合には言葉づかいをイメージしやすいが、発話者を女性とすると言葉づかいがイメージされにくい声質もあることが分かった。

また、男女で共通してイメージされにくい声質もあり、〈かすれた声〉と〈鼻の詰まった声〉に関しては、そもそも言葉づかいをイメージするのが難しいということが考えられた。

質問46 質問10～質問45で提示されている声質を持つ「人物」について、具体的に思い浮かべた人物はいるか。いる場合は当てはまるものをすべて選択し、その他を選んだ場合は具体的に内容を記入。

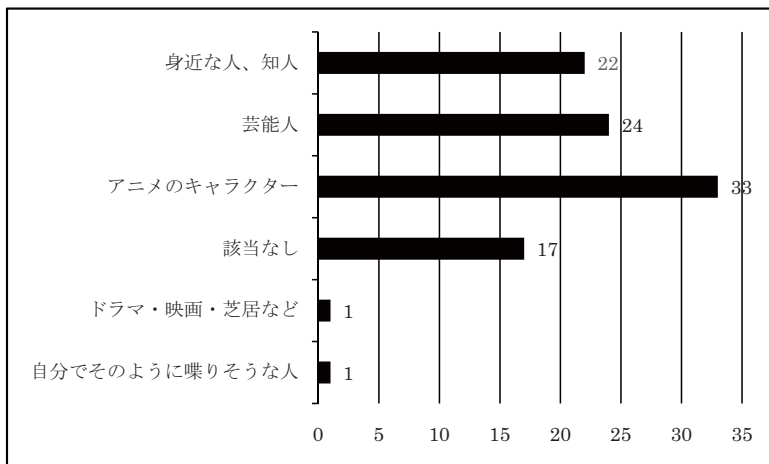


図6 具体的に思い浮かべた人物について

この質問には半数以上の被験者が具体的な人物を思い浮かべたと回答しており、声質をイメージするにあたり誰かしらの人物を想像するということが分かった。また、具体的な人物の中で最も多かったのはアニメのキャラクターであったが、これは実際の人物よりもアニメのキャラクターの方が声質に特徴がある（特徴を持たせている）ため、人物像と声質の結びつきがより濃くなっており、想起しやすいのではないかと考えられる。

#### 4. アンケート2「言葉づかいからイメージする声質」について

##### 4.1. 調査目的

アンケート1では、ある声質からイメージする言葉づかいには普遍的なステレオタイプが存在するの点について調査した。アンケート2では、アンケート1とは反対に、ある言葉づかいからイメージする声質には普遍的なステレオタイプが存在するの点について明らかにすることを目的とする。

## 4.2. 調査対象と方法

選択・記述式のアンケートを Google フォームにて行い、19歳以上の男女39人（男性10人・女性29人）から回答を得た。アンケート2の被験者数は40名集まったが、誤送信で2回送ってしまった被験者（女性）がいたため、その1名は除外とし39人分のデータを調査対象とした。アンケートは質問1～20まであり、提示した言葉づかいからどのような声質を想像したか、またその声質の持ち主について、具体的にどのような人物をイメージしたかを質問した。質問の最後には年齢と性別を回答してもらった。

アンケート1で先述した通り、本稿における「声の質を表す表現語の組み合わせ」は表6に示したものを採用しており、アンケート2では選択肢として使用している。

表6 声の質を表す表現語の組み合わせ（アンケート2における選択肢）

かわいい声・女性的な声・張りがあり響きのある声・落ち着いた声・かすれた声 色っぽい声・ドスの効いた声・渋い声・鼻の詰まった声
---

各質問で提示した言葉づかいは筆者が作文し、一人称と文末表現以外の文章は統一させた。使用した一人称と文末表現は、アンケート1同様金水敏編『〈役割語〉小辞典』（研究社 2014）内に掲載されている語を採用している。以下の表7が提示した言葉づかいの一覧である。

表7 各質問で提示した言葉づかい

〈それはぼくのことだよ（男性）〉 〈それはあたしのことよ（男性）〉
〈それはわたしのことです（男性）〉 〈それはおれのことだ（男性）〉
〈それはわしのことじゃ（男性）〉 〈それはおいどんのことでごわす（男性）〉
〈それはわたしのことです（女性）〉 〈それはわたくしのことでございます（女性）〉
〈それはあたいのことだ（女性）〉 〈それはあたしのことよ（女性）〉

## 4.3. 結果と分析・考察

アンケート2では、イメージした声質とともにどのような人物を想像したか質問をしたが、結果の中には用意した選択肢とその詳細が合致しないものがあつたため、再度分類をした。分類法は以下の通りである。<sup>注3</sup>

- ・アンケートで使用した選択肢を以下の表8のように定め直し、これに基づいて分類した。（B芸能人の選択肢に、「有名人」を追加）

表8 具体的に思い浮かべた人物についての選択肢（再定義）

A 身近な人や知人	B 芸能人・ <u>有名人</u>	C キャラクター	D 何となく自分で想像した人物
E その他	F 誰も思い浮かべなかった		

- ・分類1は被験者の選んだ選択肢を記述。
- ・分類2は被験者が記述した人物詳細に基づき、筆者が分類し直した選択肢を記述。（分類1と異なる場合のみ。）
- ・選択肢と詳細の内容不一致、詳細のみ記述の場合は訂正したものを分類2に記述。
- ・選択肢のみで詳細の記述がないものは、〈詳細無し〉と人物詳細の欄に記述。
- ・人物詳細において具体的な人物名が書かれている場合はBかCに分類し、抽象的な書き方である場合はすべてDとする。
- ・ドラマなどの具体的な役名に関してはEとする。
- ・A～Fのうちどこに分類するか不明確なものはGとする。
- ・Gのうち、詳細の内容が質問と合致しないものやよくわからない内容のものに関しては、セルを塗りつぶし不明とする。（質問にて人物を男性として指定したにも関わらず、「〇〇な女性」などと回答していた場合など）
- ・分類2で定めた人物を、現実世界の人物（X）・非現実世界の人物（Y）・どちらも断定できない人物（Z）として分類し、分類3の欄に記述。
- ・特にDやEに分類したものは、はっきりと現実世界の人物・非現実世界の人物と分かるもの以外は全てどちらも断定できない人物として分類する。

#### 4.3.1. 言葉づかいからイメージする声質（男性）

質問1～20では、提示した言葉づかいからどのような声質を想像したか、その声質の持ち主について具体的にどのような人物をイメージしたかを質問した。本稿では男性女性それぞれ一例ずつ結果と考察を紹介する。

図7・8は、各言葉づかいからどのような声質を想像したか、その票数を棒グラフで比較した。また、どのような声質の持ち主を想像していたか、現実世界の人物（X）非現実世界の人物（Y）どちらも断定できない人物（Z）で分類し、棒グラフ中に内訳を示した。

また表9・11では、被験者39人それぞれに被験者番号を振り、各被験者がそれぞれの質問にどのような回答をしたか分かるようになっている。人物の詳細については原文ママである。



そして表10・12では、アンケート1の声質からイメージした言葉づかいの結果と、アンケート2の言葉づかいからイメージした声質の結果をまとめて表記した。アンケート1では合計60人、アンケート2では合計39人と被験者数が異なるため、アンケート1と2それぞれに各項目で割合を算出し比較する。割合は小数点第2位を四捨五入し小数点第1位までの値を出している。

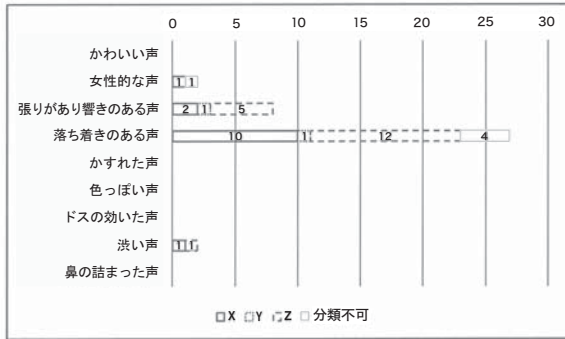


図7 〈それはわたしのことです (男性)〉からイメージする声質

表9 〈それはわたしのことです (男性)〉からイメージする声質と人物

回答者番号	イメージした声質	イメージした人物			
		分類3	分類2	分類1	人物詳細
11	女性的な声	X		B	〈詳細無し〉
16	女性的な声		G		穏やかそうな女性 ※不明
18	張りがあり響きのある声	X	A	D	職場の先輩
35	張りがあり響きのある声	X		D	就活中によくいる感じの人...
3	張りがあり響きのある声	Y		C	名探偵コナンの毛利小五郎
26	張りがあり響きのある声	Z		D	〈詳細無し〉
24	張りがあり響きのある声	Z		D	スーツをきた清潔感のある中堅のサラリーマン
31	張りがあり響きのある声	Z		D	課長や部長辺りのサラリーマン
13	張りがあり響きのある声	Z		D	真面目な男性
27	張りがあり響きのある声	Z		E	〈詳細無し〉
5	落ち着いた声	X		A	控えて大人しい人
38	落ち着いた声	X		A	紳士的なおじさん
20	落ち着いた声	X		B	IKKO
4	落ち着いた声	X		B	夏目漱石
30	落ち着いた声	X		B	塚雅人
33	落ち着いた声	X	D	B	政治家
7	落ち着いた声	X		B	西島秀俊
39	落ち着いた声	X		B	長谷川補己
1	落ち着いた声	X		D	ドラマとかで出てきそうな教授とか
17	落ち着いた声	X	E	C	相棒 右京さん
14	落ち着いた声	Y		C	黒執事のセバスチャン
36	落ち着いた声	Z		D	3.40代のだんせ
2	落ち着いた声	Z		D	サラリーマン
23	落ち着いた声	Z		D	スーツの男性
8	落ち着いた声	Z		D	スーツを着てるようなきちっとした男性
6	落ち着いた声	Z		D	ビジネスマン
10	落ち着いた声	Z		D	ゆったりと話すおじさん
9	落ち着いた声	Z		D	黒髪でメガネでスーツを着てる落ち着いた感じの男性
21	落ち着いた声	Z		D	初老の紳士
12	落ち着いた声	Z		D	人生経験豊富で地位もある人
19	落ち着いた声	Z		D	図書館の司書
29	落ち着いた声	Z		D	大人な落ち着いた人
25	落ち着いた声	Z		D	老紳士
22	落ち着いた声			F	
28	落ち着いた声			F	
32	落ち着いた声			F	
37	落ち着いた声			F	
15	洪い声	X		B	〈詳細無し〉
34	洪い声	Z	G		カフェのコーヒーターを作るおじさん

表10 言葉づかいからイメージした声質・声質からイメージした言葉づかい  
 〈それはわたしのことです（男性）〉

割合	人数	言葉づかい	↔	声質	人数	割合
0.0%	0	わたし・～です	↔	かわいい声	0	0.0%
11.7%	7	わたし・～です	↔	女性的な声	2	5.1%
6.7%	4	わたし・～です	↔	張りがあり響きのある声	8	20.5%
30.0%	18	わたし・～です	↔	落ち着いたきのある声	27	69.2%
0.0%	0	わたし・～です	↔	かすれた声	0	0.0%
6.7%	4	わたし・～です	↔	色っぽい声	0	0.0%
0.0%	0	わたし・～です	↔	ドスの効いた声	0	0.0%
13.3%	8	わたし・～です	↔	渋い声	2	5.1%
0.0%	0	わたし・～です	↔	鼻の詰まった声	0	0.0%

〈それはわたしのことです（男性）〉からは「落ち着いたきのある声」が69.2%の被験者にイメージされていたが、全体の中でも「落ち着いたきのある声」がイメージされた言葉づかいの中で最も票数が集まったのは〈それはわたしのことです（男性）〉であった。

アンケート1で「落ち着いたきのある声」から〈わたし・～です（男性）〉は2番目に多くイメージされているが、全体の約3割と考えるときほどイメージされているようには思われない。しかし、残りの7割の被験者がイメージした言葉づかいの組み合わせにはややバラつきがあり、次に多くイメージされていた〈ぼく・～です（男性）〉でも16.7%であることを考慮すると、「落ち着いたきのある声」からは〈わたし・～です（男性）〉が比較的イメージされやすく、アンケート1、2の結果を合わせると「落ち着いたきのある声」と〈わたし・～です（男性）〉は互いにイメージされやすい関係にあることが分かった。

声質をイメージする際どんな人物を想像したかという点では、現実世界の人物をイメージした人が35.9%と、どちらとも断定できない人物の46.2%の次に多かった。また人物の詳細については、声質によらず、スーツ着用、サラリーマン、3、40代、紳士的ななどの回答が多く、ほとんどの被験者が、〈わたし・～です（男性）〉からは中堅の男性をイメージしていることが分かった。



表12 言葉づかいからイメージした声質・声質からイメージした言葉づかい  
 〈それはあたいのことだ（女性）〉

割合	人数	言葉づかい	↔	声質	人数	割合
0.0%	0	あたい・～だ	↔	かわいい声	8	20.5%
0.0%	0	あたい・～だ	↔	女性的な声	3	7.7%
3.3%	2	あたい・～だ	↔	張りがあり響きのある声	19	48.7%
0.0%	0	あたい・～だ	↔	落ち着きのある声	1	2.6%
3.3%	2	あたい・～だ	↔	かすれた声	1	2.6%
0.0%	0	あたい・～だ	↔	色っぽい声	1	2.6%
13.3%	8	あたい・～だ	↔	ドスの効いた声	3	7.7%
0.0%	0	あたい・～だ	↔	渋い声	0	0.0%
1.7%	1	あたい・～だ	↔	鼻の詰まった声	3	7.7%

〈それはあたいのことだ（女性）〉からは、「張りがあり響きのある声」が最もイメージされており、被験者の48.7%を占めていた。提示した各言葉づかいから、「張りがあり響きのある声」がどのくらいイメージされていたかを割合で比較すると、〈それはおれのことだ（男性）〉の56.4%の次に〈それはあたいのことだ（女性）〉が多い結果となった。

アンケート1で「張りがあり響きのある声（女性）」から言葉づかいをイメージしてもらった際には全体的に言葉づかいがイメージされにくい結果となっており、〈あたい・～だ〉も3.3%の被験者にしかイメージされていなかった。この結果から、〈あたい・～だ〉と「張りがあり響きのある声」は、言葉づかいからはイメージされにくいのが、声質からはイメージされやすい言葉づかいと声質の組み合わせであることが分かった。

声質をイメージする際どんな人物を想像したかという点において、非現実世界の人物をイメージした人が30.8%おり、どちらも断定できない人物の53.8%の次に多かった。人物の詳細については、声質によらず活発、強気、ヤンキーといった要素を持つ女性をイメージしている人が大半であった。年齢は10代くらいの少女が多く若い女性をイメージしていることが分かる。

#### 4.3.3. 言葉づかいからイメージする声質（全体）

4.3.1では男性のもの1件、4.3.2では女性のもの1件を示したが、その他、各言葉づかいから最もイメージされた声質を表13に示す。

表13 各言葉づかいから最もイメージされた声質

言葉づかい	声質	人数	割合
ぼく・～だよ(男性)	落ち着いたきのある声	17	43.6%
あたし・～よ(男性)	色っぽい声	11	28.2%
わたし・～です(男性)	落ち着いたきのある声	27	69.2%
おれ・～だ(男性)	張りがあり響きのある声	22	56.4%
わし・～じゃ(男性)	かすれた声	20	51.3%
おいどん・～でござす(男性)	ドスの効いた声	24	61.5%
わたし・～です(女性)	落ち着いたきのある声	16	41.0%
わたくし・～でございます(女性)	女性的な声	11	28.2%
	落ち着いたきのある声	11	28.2%
あたい・～だ(女性)	張りがあり響きのある声	19	48.7%
あたし・～よ(女性)	女性的な声	15	38.5%

アンケート1の質問1、5、8の結果より、「人物像から声質をイメージすることは可能である」ということが導かれたが、ここから派生して、ある一つの言葉づかいから抱く声質のイメージにはステレオタイプがあるのかということ調査する目的でアンケート2を行った。

その結果、同じ声質をイメージしている被験者が5割以上である言葉づかいが、提示した10種類の言葉づかいのうち4種類あった。具体的には、〈わたし・～です(男性)〉からイメージされた〈落ち着いたきのある声〉、〈おれ・～だ(男性)〉からイメージされた〈張りがあり響きのある声〉、〈わし・～じゃ(男性)〉からイメージされた〈かすれた声〉、〈おいどん・～でござす(男性)〉からイメージされた〈ドスの効いた声〉である。ある一つの言葉づかいに対して抱く声質のイメージにはステレオタイプがあるかという点に関して、これらはある程度のステレオタイプの存在が認められるのではないかと考えられる。しかし、使用者を「女性」とした場合の言葉づかいから声質をイメージさせたものに関しては、同じ声質をイメージしている被験者が5割以上である言葉づかいは1種類もない。使用者が女性である場合の言葉づかいからは、決まった1つの声質はなかなかイメージされにくいということが分かった。

3で示した通り、アンケート1では、〈かわいい声(男性)〉からは〈ぼく・～だよ〉という言葉づかいが多くイメージされており、それはある程度のステレオタイプとなっ

ているということが分かったが、その他の声質から抱く言葉づかいのイメージにはステレオタイプは認められなかった。

アンケート1とアンケート2の結果を比較してみるとどうだろうか。声質から言葉づかいをイメージするよりも、言葉づかいから声質をイメージする方がイメージされやすく、またある程度のステレオタイプが認められるものが多い結果となっていることが分かる。例えばマンガを読みながら登場人物を想像するというように、言葉づかいから声質をイメージするという経験は多くの人にとって少なくないのではないだろうか。その経験によって、言葉づかいから声質をイメージすることができるのではとも考えられた。

## 5. まとめ

本稿では、言葉づかいと声質について着目し、その2つの関係について調査するためにアンケートを行った。

アンケート1では、ある声質からイメージする言葉づかいにはステレオタイプが存在するか、アンケート2では、ある言葉づかいからイメージする声質にはステレオタイプが存在するか、という点について調査を行った。

アンケート1では初めに、〈声に対する個人それぞれの先入観〉と〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉について質問した。〈声に対する個人それぞれの先入観〉についての質問では、「個人それぞれの先入観で人物像からイメージした声質」と「実際の声質」について、それらが一致しなかったことが、現実世界の人物に対しても、非現実世界の人物に対してもあるという被験者が8割を占める結果となった。また、「個人それぞれの先入観で声質からイメージした人物像」と「実際の人物像」について、それらが一致しなかったことが、現実世界の人物に対してあるという被験者も約8割を占めた。

〈言葉に対する個人それぞれの先入観〉についての質問では、「個人それぞれの先入観で人物像からイメージした言葉づかい」と「実際の言葉づかい」について、それらが一致しなかったことが、現実世界の人物に対してあるという被験者が約7割を占める結果となった。また、「個人それぞれの先入観で言葉づかいからイメージした人物像」と「実際の人物像」について、それらが一致しなかったことが、現実世界の人物に対してあるという被験者も7割を占めた。

そして、「個人それぞれの先入観で人物像からイメージした言葉づかい」と「実際の言葉づかい」、「個人それぞれの先入観で言葉づかいからイメージした人物像」と「実際の人物像」について、それらが一致しなかったことが、非現実世界の人物に対してある

かという質問では、半数以下の被験者のみ経験があるという結果になった。この結果から、非現実世界の人物においては、キャラクターの作り手とその受け手との間に共通したイメージが存在し、人物像からイメージする言葉づかいと、言葉づかいからイメージする人物像には、ステレオタイプが存在するということが確認できるのではないだろうかと考えた。

言葉づかいが声質のイメージ形成にどれほど影響を及ぼすかという点については、「性別」の次に、「容姿」と同程度で「言葉づかい」が影響をもたらすことが分かった。これは、言葉づかいと声質がそもそも役割語を形成する上での要素同士であるためだと考えられる。声質と言葉づかいの結びつきは、過去に観たアニメ作品などから、個人それぞれに構築されていくのだろう。

「ある声質からイメージする言葉づかいにはステレオタイプが存在するか」という点について、声質から何らかの言葉づかいをイメージすることは可能であるが、ステレオタイプがある程度存在すると認められたのは〈かわいい声（男性）〉からイメージされた〈ぼく・～だよ〉のみということになった。各声質の比較的イメージしやすい言葉づかいについては声質同士で共通するものが多いという結果である。

言葉づかいがイメージされにくい声質も存在し、〈張りがあり響きのある声（女性）〉と〈ドスの効いた声（女性）〉からは言葉づかいがイメージされにくい、〈張りがあり響きのある声（男性）〉〈ドスの効いた声（男性）〉からは言葉づかいが比較的イメージされているというように、発話者の性別によっては言葉づかいをイメージしにくい声質もあるということが分かった。また、〈かすれた声〉と〈鼻の詰まった声〉のように発話者の性別関係なく言葉づかいがイメージされにくい声質も存在するようだった。

「ある言葉づかいからイメージする声質にはステレオタイプが存在するか」という点については、アンケート2より、〈わたし・～です（男性）〉からイメージされた〈落ち着きのある声〉、〈おれ・～だ（男性）〉からイメージされた〈張りがあり響きのある声〉、〈わし・～じゃ（男性）〉からイメージされた〈かすれた声〉、〈おいどん・～でござす（男性）〉からイメージされた〈ドスの効いた声〉には、ある程度のステレオタイプの存在が認められるのではないかと結論付けた。声質から言葉づかいをイメージするよりも、言葉づかいから声質をイメージする方がイメージされやすく、またある程度のステレオタイプが認められるものが多い結果となった。声質からイメージする言葉づかいと、言葉づかいからイメージする声質には、それぞれステレオタイプが存在すると言い切れるものは少ない。しかし、声質から比較的イメージされやすい言葉づかいと、言葉づかい

から比較的イメージされやすい声質があったのも事実である。声質と言葉づかひの関係には、言葉づかひと声質で互いにイメージされやすい関係にあるもの、言葉づかひからはある程度イメージされるが声質からはあまりイメージされないもの、そして言葉づかひからはあまりイメージされないが声質からはある程度イメージされるものという関係があることが分かった。

## 6. おわりに

本稿では言葉づかひと声質の関係について探り、ある程度の関係性を明らかにすることができた。

しかし、結論として、言葉づかひだけでは声をはっきりと想像することはできない。

そもそも、一要素に限定して声質をイメージするのは容易ではなく、容姿や年齢性別といった他要素についても、その要素のみから声をイメージするのは難しい。私たちが何気なく「この声はこのキャラクターに合っていないな」と感じるの、見た目と、性格と、言葉づかひと、性別と、と様々な要素が絡み合ってきた人物像と「声」のパラメータに自分の先入観をあてて考えているからなのである。

個人の先入観がどのように決まっていくかといえば、マンガやアニメなどフィクションの世界でよく用いられることが多い役割語に、どれくらい触れるかによって決まるのではないだろうか。

日本にはマンガやアニメの文化が根付いており、そのジャンルは多岐に渡る。役割語の種類も増えていく可能性があり、言葉づかひと声質との関係もまた変化するであろう。

### 注

- (1) この理由の一つに、質問で提示された状況にそもそも陥ったことが無いという被験者がいるのではないかとということが考えられる。「いいえ (=経験なし)」は、「質問で提示された状況に直面したことはあるが、印象に変化はなかった」という場合か、「質問で提示された状況にそもそも直面したことが無い」という場合によって選択されていると考えられ、質問の選択肢には「質問で提示されている状況に直面したことが無い」という選択肢も設けておくべきだったことが反省点として挙げられる。
- (2) しかし先述したように、そもそも質問に提示された状況に直面したことが無いという被験者が「いいえ」を選択している可能性が高く、今回の結果からはステレ



オタイプの内容は断言できなかった。

(3) 表9・11参照。

## 参考文献

粕谷英樹・楊長盛（1995）「小特集一声質：音声言語の多様性に迫る一音源から見た声質」『日本音響学会誌』51巻11号， pp.869-875.

金子梢（2011）「声質から見る役割語の一考察」恵泉女学園大学人文学会編『恵泉アカデミア』16巻， pp.117-154， 恵泉女学園大学人文学会.

木戸博・粕谷英樹（1999）「通常会話の声質に関連した日常表現語の抽出」『日本音響学会誌』55巻6号， pp.405-411.

金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.

金水敏編（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社.

（なかむら さおり 2019年日文卒）